

10/09・神戸製鋼がデータ改ざん アルミ部材 航空・車200社に供給 10年前から組織的に

10/10・経常黒字、8月で最高 前年同月比20.8%増の2.3兆円 < 1 > < 2 >  
第1次所得収支（海外からの配当や投資収益）は13%増の2.2兆円

10/11・米・トルコ亀裂深まる ビザ発給相互に停止 中東の安全保障に影 リラなどトリプル安  
・独、難民流入抑制に転換 年20万人上限 与党議席減受け  
・トランプ政権 火力発電規制撤廃へ 化石燃料の開発促進 炭鉱労働者にアピール  
・米機、朝鮮半島に再展開 北朝鮮けん制 日韓と共同訓練  
南シナ海に駆逐艦 「航行の自由」作戦 現政権4回目  
・倒産件数9年ぶり増 上期0.1%、負債総額3倍超  
・アリババ時価総額アマゾン上回る 2年3カ月ぶり 一時4700億ドル（約53兆円）  
・国務長官発言報道でトランプ氏「バカというならIQテストで勝負だ」  
・仮想通貨、米金融を二分 JPモルガン「詐欺だ」 ゴールドマンは好意的

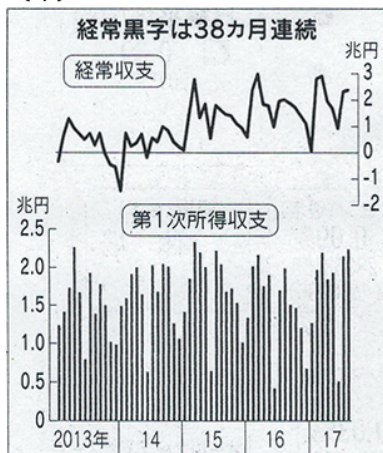
10/12・日経平均21年ぶり高値 2万881円 外国人、企業の収益力評価 自社買いも高水準  
・スペイン「自治権停止も」 カタルーニャ独立問題 撤回迫り強硬姿勢 < 3 >  
・FOMC（米連邦公開市場委員会）9月議事要旨公表 「年内利上げ」大半  
・米軍、朝鮮半島に集結 来週、空母を展開  
・韓国、人気旅行先首位に日本 「片思い」に経済界嘆き節

10/13・米、ユネスコ脱退（来年末） 国際社会、驚きと批判  
パレスチナ自治区のヘブロン旧市街世界遺産に「反イスラエルの」と反発  
・増税凍結で負担541万円増 消費税で民間試算 使途変更は270万円増 < 4 >  
・サムスン営業益2.7倍 7~9月、1.4兆円 スマホ向け半導体好調  
・中韓通貨交換協定を延長 2009年締結これまで2回更新  
・G7（財務相・中央銀行総裁会議、ワシントン） 北朝鮮に最大限の圧力

10/14・イラン核合意 トランプ氏「破棄も」 EUは批判 英独仏首脳「影響を懸念」  
・中国、車専用電池（リチウムイオン）世界シェア6割 国が巨額投資支援 < 5 >  
2位日本は2割、3位韓国1割 EV世界販売台数に占める中国のシェアは乗用車で51%  
・中国、北朝鮮からの輸入38%減（9月）  
・NAFTA再交渉 米が車に米部材50%以上使う条項を提案

10/15・G20（財務相・中央銀行総裁会議、ワシントン） 高揚感なき成長 < 6 > < 7 >  
すべての国でプラス成長は7年ぶり 低物価・低金利、政府債務急増にリスク  
日本、基礎的財政収支黒字化目標の公約撤回 財政の信認揺らぐ

<1>



<2>

**8月の国際収支**  
(単位億円、▲は赤字または減少、カッコ内は前年同月比%)

▽経常収支	23,804
貿易・サービス収支	3,389
貿易収支	3,187
輸出	61,656
	(16.3)
輸入	58,470
	(15.1)
サービス収支	202
旅行収支	927
知的財産権等使用料	3,444
第1次所得収支	22,385
第2次所得収支	▲1,970
▽資本移転等収支	▲13
▽金融収支	19,230
▽誤差脱漏	▲4,561

<3>

▼スペインの自治制度  
スペインはカタルーニヤ州を含む17の自治州、北アフリカの2つの自治都市を持つ。自治の範囲はそれぞれ異なり、例えばカタルーニヤではカタルーニヤ語による教育ができるほか、警察、福祉の一部で自治権を持つ。

しばしば関心を集めるのは徴税権で、自治州の中には北部バスク州やナバラ州が幅広い徴税権を持っている。カタルーニヤ州は同等の権利を持っておらず、州の税収が他の地域への投資に回されているとの不満が独立機運を高めている。

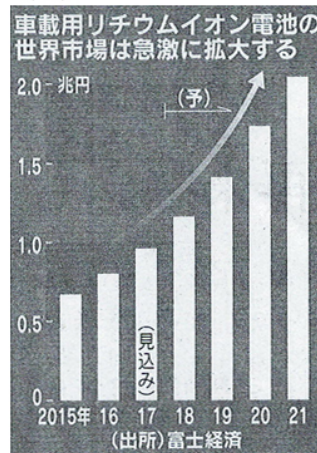
<4>

**将来世代の負担は最大で541万円増**

現在の年齢	増税凍結	増税し使途変更
これから生まれてくる世代一人当たりの国の借金増	<b>541万円</b>	<b>270万円</b>

(注)生涯所得を一律2.3億円と仮定

<5>



<6>

**G20財務相会議のポイント**

**【世界経済の現状】**  
経済の回復は強固。構造改革は不断に推進を

**【欧米の金融政策】**  
金融引き締めが急激な資本移動につながる可能性

**【地政学リスク】**  
北朝鮮やシリア情勢が世界経済のリスク要因に

**【自由貿易】**  
主要テーマにはならず。内向き志向には懸念も

**【財政健全化】**  
推進が必要で一致。日本は財政目標達成先送りを説明

<7>

